

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

石川魂
○最後まで粘り強く頑張る子(知・体)
○自分や友達の思いを大切に協働する子(徳)
○自分たちのまちを愛する子(公・開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<自分づくりに関する力>
小・中9か年で4つの資質「自己有用感・
学ぶ意欲・コミュニケーション能力・規範意
識」の定着を図ります。

具体化した資質・能力

対話を通して新たな考えを得る力
思いや願いを実現しようとする力
他者と協力して取り組む力

中期取組目標

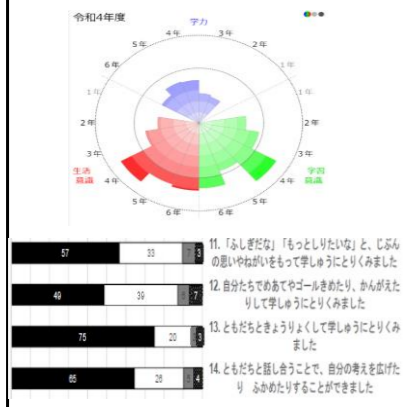
○基礎・基本の定着と確かな学力の向上を目指し、「自ら課題を見つけて解決ができる子ども」を育てます。
・思いや願いをもって、主体的に学習に取り組み、その成果を実感できるようにして、自己有用感を高められるようにします。
・学習の基礎・基本の定着を図り、子どもたちが自信をもって取り組むことができる姿勢を育てます。
・対話的な学習を通してコミュニケーション力を高めることで、自分のことを豊かに表現したり、相手にさらに深く関わろうとしたりする心情を育てます。
・健康的な生活を送るために、体力の向上を図り、日常生活の中で運動に親しむことができる活動を充実させることを目指します。
・自分たちのまちに進んで関わろうとする態度を育て、自分たちのまちのよさを感じ取り、まちを愛することができる子どもを育てます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (生きてはたらく知) and 具体的取組 (①自ら学ぶ力を育てるため、学校教育目標の具現化で示した7つの資質能力を意識して教育活動を行います。②重点研究テーマを「思いや願いをもち、いきいきと伝え合う中で考えを広げ深める子どもの育成」とし、国語科を中心に、「話す・聞く」力をもとにしたコミュニケーション能力を育成します。③漢字・計算等の基礎的な知識・技能の習得に努めます)

学力向上に関わる本校の状況

令和4年度実施の横浜市学力・学習状況調査等から児童の実態を把握すると、学力は、全体的に横浜市の平均を下回っている。
また、学校独自で行った、学力に関する子どもへのアンケートによると、「『不思議だな』『もっと知りたいな』と、自分の思いや願いをもって学習に取り組みました」や、「自分たちで決めてゴールを決めたり考えたりして学習に取り組みました」の項目では、どの学年でも「そう思う」と回答する児童の割合がやや低い。一方、「友達と協力して学習に取り組みました」の項目では、どの学年でも「そう思う」と回答する児童の割合が高い。これらの結果から、自分の思いや願いをもって主体的に学習に取り組もうとする意識が低いこと、その一方で友達と協働して学習することの楽しさを感じている子どもが多い。



今年度の目標

対話的な学びを各教科の授業を通して重ねていくことで、コミュニケーション能力を育成する。また、主体性を支えるための授業づくりと、基礎・基本の定着、充実を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○主体性を育むための授業づくりと、基礎・基本の定着、充実
・学習が自分事になるように、目的、内容、対象を十分に検討できるようにする。
・見通しをもち、自らの学習の在り方を調整しながら課題解決に向かうようにする。
・朝学習の時間を、漢字、計算など、明確に位置付ける。
・購入する補助教材は、子どもたちの自己肯定感を育むことを意識し、系統性を重んじて選定する。
・学校独自の算数の補助教材を作成し、進度別に進んで取り組めるようにする。
・算数の少人数学習や、特別支援教室等を利用して子どもの学びの場を工夫したり、日々の授業、家庭学習における学びを着実に積み重ねたりして、基礎学力の向上を図る。
・学校独自の漢字検定の実施を通して、漢字に親しむ。
○対話的な学びの充実
・国語科の研究を通して、言語活動の充実を図る。
・話型や質問の仕方を掲示して、コミュニケーションスキルの向上を目指す。

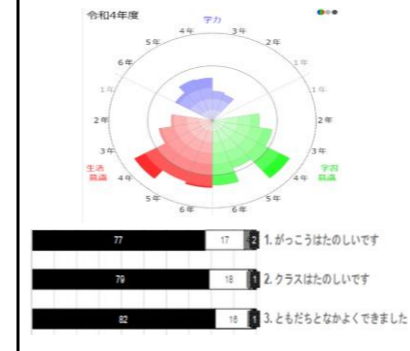
下半期
○対話的な学びや基礎学力の定着、充実を継続するとともに、それらの力が備わったか検証していく
・年間2回のアンケートを実施し、アンケートにおける各項目でどのような変化があったかを検証する。
・アンケートの分析から得られた成果や課題を職員間で共有、改善指導に生かす。
・横浜市学力・学習状況調査の結果を踏まえて、指導に生かす。
これらを確実に実行するためにも、年度当初に立ち上げた、重点研推進委員会とともに学力向上委員会連携を図るようとする。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心) and 具体的取組 (①道徳科を中心に、学校全体の道徳教育を充実させ、学校生活を通して、豊かな人間関係を結び、自尊感情を育む指導をします。②様々な行事等で子どもたちが主体となって取り組む機会を意図的に設定し、できたことを認める声かけ等を心がけたり、子どもの振り返りを丁寧に行い、タイムリーに評価したりすることで、達成感や思いやり、互いを認め合う心を育てます)

豊かな心に関わる本校の状況

令和4年度の横浜市学力・学習状況調査の分析によると、学習意識と生活意識では、学年による意識の高さの違いが大きい。学習の意識が高いと生活意識も高い傾向があり、その逆(意識の低さ)も然りである。
本校独自の子どもアンケートの結果によると、「学校は楽しいです」「クラスは楽しいです」「友達と仲良くできました」という項目に対して、「そう思う」と回答する児童の割合が高い。
教師や子どもの声掛けには素直に応じたり、受け入れようとしていたり、それをすぐに実行しようとする事ができる子どもたちが多い。一方で、家庭環境に課題があること等の理由から、自分を肯定的に受け止めることができなかったり、周りに対して攻撃的になってしまったりする子どももいる。



今年度の目標

自尊感情を高め、自分自身を肯定的に受け止めることで、自分に自信をもち、相手に関心をもち、協働して取り組むことのできる心を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○子どもたち一人一人が自尊感情を高める
・教師は子ども一人一人をよく見取り、ありのままを受け入れる共感的な態度で接し、子どもの成長や変容には、進んで価値付けし、自信をもてるようにする。
・朝のあいさつ活動を促し、円滑なコミュニケーション力を育てる。
・道徳科を要とした道徳教育の充実を図り、各学級の道徳科の授業を公開したり、教員間で見合ったりする。
・各教科や様々な教育活動において、振り返りの時間を保障し、自らの成長や変容を感じることができるようになる。

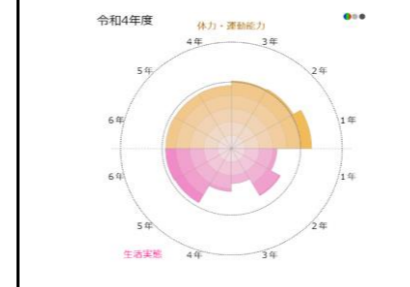
下半期
○相手意識をもち、協働して取り組むことのできる心を育てる
・宿泊体験学習を通して、豊かな体験学習や学びの機会を保障する。
・縦割り班やペア学習での活動の充実を図り、学年を越えて進んで関わりをもとうとする気持ちを育てる。
・生活科、総合的な学習の時間や、見守り隊の方々と交流を通して、まちの人の関わりを密にすることで、自分たちが地域の構成員の一人であることや、自分たちを見守ってくれる人たちの存在に感謝の気持ちをもてるようにする。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体) and 具体的取組 (①体育の時間をはじめ、運動会や校庭での体育的活動、休み時間の遊び等を通して、多くの動きや遊び・ゲームを楽しめる心を育てます。②体育、保健、給食の各委員会の活動を充実させ、児童の規則正しい生活習慣と健康への実践力を高めていきます)

健やかな体に関わる本校の状況

(1)体育・健康に関する実態
令和4年度実施の横浜市体力・運動能力実施調査のアンケートから児童の実態を把握すると、
・「朝食を、毎日食べている」と答える子どもの割合が市の平均に比べて低かった。
・運動部やスポーツクラブに所属している子どもの割合が市の平均に比べて低い。
・運動の習慣は、市の平均と比べて、全体的に変わらない。
(2)体力の概要と要因の分析(小学校は全校配付の体力・運動能力調査分析チャートを活用)
新体力テストから、20mシャトルランの結果を見ると、どの学年も概ね市の平均が、平均を下回っている。このことから、体育の授業や児童の委員会活動などを通して、体力向上を目的とした取り組みを積極的に図っていく。ソフトボール投げや反復横跳びなどの種目も概ねどの学年も市の平均を下回る数値となっている。児童の実態を把握し、体育科学習における準備運動や主運動を中心に、運動能力の向上や運動の習慣化を目指していきたい。



今年度の目標

規則正しい生活習慣と健康への意識を高め、進んで健康や体力の向上に励む力を育てるために、子どもたちが進んで体を動かしたり、運動や食育等の面で健康への関心が高まったりするような活動を意図的に設定する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
◎体育の時間、運動会、休み時間の外遊びによる、「健やかな体」の育成
○体育科での取り組み
・体育科・保健体育科では、「体づくり運動」の領域を重点領域とする。「多様な動きをつくる運動」では、様々な動きの中で、敏捷性を高めたり、体幹を強めるために体のバランスをとる動きや力試しの動きを指導する。「持久走」では、自分に合ったペースを見つけ、長く走れるよう指導し、基本的な動きの定着に努める。
○運動会、新体力テストでの取り組み
・運動会や新体力テストで、自分の運動能力を把握し、今後の体育科・保健体育科での活動につなげていく。

下半期
◎児童の委員会活動による「健やかな体」を目指す主体的な取り組み
○健康で安全に生活する力を育む
・保健活動の充実を図り、委員会が中心となり、心身の充実には、心と体が相互に影響し合っているのかを考える機会をもつようにする。
・体育委員会が中心となり、休み時間の外遊びを促すなど、健康には適度な運動が大切なことに気付かせるようにする。
○体育科以外での教科の取組
・家庭科では、栄養バランスのよいメニューを考えたり、食事のマナーを意識したりするなど、日々の食生活を見直すようにしていく。
・道徳科など全教育活動において、目標に向かって、最後まで取り組むことのできる心を大切に指導していく。
○委員会活動
・保健美化委員会では、児童の健康への意識を高めるような活動を工夫して行う。